

目 次

まえがき	7
序 論 仕事と賃金を規制するために	11
第1章 属人給から仕事給へ	21
1. 仕事給へ	
2. 査定の日米比較	
補論1 曖昧な職務では査定が差別的になる理由	
第2章 低賃金の世界（年功賃金の外側）	41
1. 最低賃金制度	
2. 中小企業の賃金	
3. 正社員と非正社員	
4. パート賃金 ー同一価値労働同一賃金ー	
第3章 能力主義と成果主義（年功賃金の内側）	77
1. 能力主義ー職能資格制度ー	
2. 能力主義下の合理化	
3. 成果主義とは何か ー目標管理ー	
4. 成果主義とは何か ーコンピテンシー評価ー	
補論2 査定昇給	
補論3 ボーナス（賞与・一時金）の変動	
第4章 ポスト成果主義 ー揺れる資本の賃金政策ー	117
補論4 企業不祥事と懲戒処分（損害賠償）	
第5章 社会保障と賃金	133
第6章 格差社会における「努力」	143
第7章 仕事と資本主義	153
1. 資本主義的分業の特徴	
2. モノ作りの労働	
3. ヒトと接する仕事と間接的な仕事	
4. 生産の社会的性格と〈労働〉	
第8章 賃金と資本主義	171
第9章 戦後の賃金史	179
1. 春闘の発展と横断賃率論	
2. 個別賃金要求方式	
終 章 これからの賃金闘争 ーまとめにかえてー	197
参考文献	208